

科目名	民法入門		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状(社会)/高等学校教諭一種免許状(公民)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活情報学科の学科専門科目として位置付けられている。

科目の概要

民法は個人の衣食住にかかわる基本的なルールであり、「市民の法」「市民の権利・義務」を理解する上で不可欠かつ最も重要な法律である。ビジネス関係の法律、消費者保護の法律、家族関係の法律など各種の法律は民法を基礎としている。この民法の基礎的知識の習得と、法的思考力の身につけることを目的とする。民法には、契約や不法行為を取り扱う債権法のほか、物権・担保物権、親族法・相続法が含まれるが、この科目ではとりわけ、家を借りる、洋服を買う、誕生日プレゼントをするといった身近な行為に関係の深い民法の債権法を中心に取扱う。

科目の目的

身近な「契約」という行為がどのような法的な意味内容をもつものかを中心に学び、民法・債権法の基本的な理解を図ることを目的とする。

内容

1	債権法のガイダンス及び契約の成立
2	契約の効力： 同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約
3	契約の解除： 解除の要件・効果、消費者保護とクーリングオフ
4	契約各論(1)： 贈与契約 - 意義・成立・効力・特種の贈与
5	契約各論(2)： 売買契約 - 意義・成立・効力
6	契約各論(3)： 売買契約 - 買戻しについて
7	契約各論(4)： 交換・消費貸借・使用貸借
8	契約各論(5)： 賃貸借契約の意義・期間・効力
9	契約各論(6)： 雇用・委任・その他の典型契約
10	契約以外の債権発生原因(1)：事務管理・不当利得
11	契約以外の債権発生原因(2)：不法行為
12	債権の効力： 強制執行・債務不履行・損害賠償・受領遅滞
13	多数当事者の債権関係： 連帯債務・保証債務
14	債権の消滅： 弁済・代物弁済・相殺他
15	総括

評価

提出物・受講態度(40点)、ペーパーテスト(60点)を、総合して評価する。100点満点中60点が単位取得の下限である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『スタートライン債権法』[第5版] 池田真朗（日本評論社）

【参考書】『デイリー六法』（三省堂） その他の六法でも可

科目名	社会人基礎力		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 生活情報学科の専門科目B「キャリアを形成する」の1年後期必修科目

2 社会人として自らのキャリア・ライフプランを作りその後の人生を歩む基礎力を培うため、グループワークや個人によるワークを効果的に組み合わせ、働きかける力、計画力、話す力・聴く力、対人協力などの育成、コーチングなどによる自己課題の発見と解決などを行い、社会人として必要な能力を育成します。

内容

1回 社会人基礎力についてのオリエンテーション

アイスブレイキング、グループ総当たりの自己紹介・他己紹介

2 - 7回 グループワーク

- ・世の中のしくみ・お金とものの流れ
- ・合意形成のコミュニケーションーチームワーク
- ・自分の価値観を人に伝える
- ・ディベート
- ・グループワークを通じて、時間管理、リーダーシップなどを体験する

8 - 10回 コミュニケーション力育成

- ・聴く力・傾聴トレーニング
- ・アサーション 1
- ・アサーション 2

11・12回 女性のライフサイクルをめぐっての討議

- ・悩みや転機 会議討論
- ・グループ内で発表しまとめる

13回 各人のキャリア・ライフプランニング

14回 「わたし」のプロデュース

15回 まとめ メッセージ交換

評価

各回、またはテーマごとに自己評価を行う（50点）。授業への参加状況（30点）、と教員評価（20点）を合わせて100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に紹介する。

科目名	社会人基礎力		
担当教員名	亀田 温子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 生活情報学科の専門科目B「キャリアを形成する」の1年後期必修科目

2 社会人として自らのキャリア・ライフプランを作りその後の人生を歩む基礎力を培うため、グループワークや個人によるワークを効果的に組み合わせ、働きかける力、計画力、話す力・聴く力、対人協力などの育成、コーチングなどによる自己課題の発見と解決などを行い、社会人として必要な能力を育成します。

内容

1回 社会人基礎力についてのオリエンテーション

アイスブレイキング、グループ総当たりの自己紹介・他己紹介

2 - 7回 グループワーク

- ・世の中のしくみ・お金とものの流れ
- ・合意形成のコミュニケーション-チームワーク
- ・自分の価値観を人に伝える
- ・ディベート
- ・グループワークを通じて、時間管理、リーダーシップなどを体験する

8 - 10回 コミュニケーション力育成

- ・聴く力・傾聴トレーニング
- ・アサーション 1
- ・アサーション 2

11・12回 女性のライフサイクルをめぐっての討議

- ・悩みや転機 会議討論
- ・グループ内で発表しまとめる

13回 各人のキャリア・ライフプランニング

14回 「わたし」のプロデュース

15回 まとめ メッセージ交換

評価

各回、またはテーマごとに自己評価を行う（50点）。授業への参加状況（30点）、と教員評価（20点）を合わせて100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に紹介する。

科目名	社会人基礎力		
担当教員名	森山 貴代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 生活情報学科の専門科目B「キャリアを形成する」の1年後期必修科目

2 社会人として自らのキャリア・ライフプランを作りその後の人生を歩む基礎力を培うため、グループワークや個人によるワークを効果的に組み合わせ、働きかける力、計画力、話す力・聴く力、対人協力などの育成、コーチングなどによる自己課題の発見と解決などを行い、社会人として必要な能力を育成します。

内容

1回 社会人基礎力についてのオリエンテーション

アイスブレイキング、グループ総当たりの自己紹介・他己紹介

2 - 7回 グループワーク

- ・世の中のしくみ・お金とものの流れ
- ・合意形成のコミュニケーション-チームワーク
- ・自分の価値観を人に伝える
- ・ディベート
- ・グループワークを通じて、時間管理、リーダーシップなどを体験する

8 - 10回 コミュニケーション力育成

- ・聴く力・傾聴トレーニング
- ・アサーション 1
- ・アサーション 2

11・12回 女性のライフサイクルをめぐっての討議

- ・悩みや転機 会議討論
- ・グループ内で発表しまとめる

13回 各人のキャリア・ライフプランニング

14回 「わたし」のプロデュース

15回 まとめ メッセージ交換

評価

各回、またはテーマごとに自己評価を行う（50点）。授業への参加状況（30点）、と教員評価（20点）を合わせて100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に紹介する。

科目名	社会人基礎力		
担当教員名	森山 貴代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 生活情報学科の専門科目B「キャリアを形成する」の1年後期必修科目

2 社会人として自らのキャリア・ライフプランを作りその後の人生を歩む基礎力を培うため、グループワークや個人によるワークを効果的に組み合わせ、働きかける力、計画力、話す力・聴く力、対人協力などの育成、コーチングなどによる自己課題の発見と解決などを行い、社会人として必要な能力を育成します。

内容

1回 社会人基礎力についてのオリエンテーション

アイスブレイキング、グループ総当たりの自己紹介・他己紹介

2 - 7回 グループワーク

- ・世の中のしくみ・お金とものの流れ
- ・合意形成のコミュニケーションチームワーク
- ・自分の価値観を人に伝える
- ・ディベート
- ・グループワークを通じて、時間管理、リーダーシップなどを体験する

8 - 10回 コミュニケーション力育成

- ・聴く力・傾聴トレーニング
- ・アサーション 1
- ・アサーション 2

11・12回 女性のライフサイクルをめぐっての討議

- ・悩みや転機 会議討論
- ・グループ内で発表しまとめる

13回 各人のキャリア・ライフプランニング

14回 「わたし」のプロデュース

15回 まとめ メッセージ交換

評価

各回、またはテーマごとに自己評価を行う（50点）。授業への参加状況（30点）、と教員評価（20点）を合わせて100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に紹介する。

科目名	会計学基礎		
担当教員名	井上 修		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、企業の経済活動を記録・計算し各利害関係者に伝達する機能を有する会計の役割とその基本的な仕組みを学修する科目である。会計を学修する意義を明確にし、企業の経済活動との関連性を理解することが求められる。本科目では、会計の具体的な規則やルールを学ぶ前に、社会においていかに会計が役立ち、社会に影響を与えているのかを、実践を通じて学修した上で、会計学の根幹を成す簿記の原理を学修していく。

科目の概要

まず、会計学の前提知識として、ビジネス経営のシミュレーションを通じて会社経営の基礎を学び、会計の有用性を体得する（講義1,2）。その上で、会計の専門的な用語や財務諸表分析のための具体的な手法を習得し、その知識を実社会の中で応用させるための方法を実践を通じて学修する（講義3～8）。そして、財務諸表を作成するための技術である簿記の原理・原則を学修する（講義9～14）。

学修目標

1. 会計の有用性を実践を通じて理解する。
2. 簿記における基本的な考え方や処理方法を習得し、企業の実態を反映する財務諸表について理解する。
3. 財務諸表から得られる情報を、ビジネスにおける様々な活動に活用できる能力を習得する。

内容

1	会計を学修する意義
2	ビジネスゲーム
3	会計情報の基礎知識（損益計算書，貸借対照表，キャッシュ・フロー計算書）
4	会計分析の基礎知識（財務指標，比率分析，趨勢分析）
5	決算分析実例
6	企業の決算報告
7	会計情報と公認会計士の役割
8	会社組織と経営の仕組み
9	簿記の基礎原理（簿記の5要素と仕訳）
10	簿記の基礎原理（転記と試算表）
11	財務諸表の作成
12	商品販売（三分法，分記法，値引・返品）
13	商品販売（売上帳，仕入帳，商品有高帳）
14	商品販売（払出単価の算定）
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（30点）と、学修目標に基づく筆記形式の試験（60点）、通常の授業態度（10点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【電卓】受講するには、必ず電卓を購入の上、参加するようにしてください。以下に、検定試験対応の電卓を紹介しますので参考にして下さい。ただし、必ずしも同じ電卓を購入する必要はありません。検定試験に対応したものであれば他の機種でも構いませんので、各自で検討するようにして下さい。「CANON HS-1210TU」「SHARP EL-G36」

【テキスト（教科書）】TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記3級：商業簿記Ver.5.0』TAC出版，TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記3級：商業簿記Ver.5.0』TAC出版

その他適宜、補助レジュメを用意する。

【参考図書】乾 隆一『これだけは知っておきたい「会計」の基本と常識 社会人として最低限知っておきたい「会社のしくみ」がわかる』フォレスト出版

その他、随時教室にて紹介する。

科目名	会計学基礎		
担当教員名	井上 修		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、企業の経済活動を記録・計算し各利害関係者に伝達する機能を有する会計の役割とその基本的な仕組みを学修する科目である。会計を学修する意義を明確にし、企業の経済活動との関連性を理解することが求められる。本科目では、会計の具体的な規則やルールを学ぶ前に、社会においていかに会計が役立ち、社会に影響を与えているのかを、実践を通じて学修した上で、会計学の根幹を成す簿記の原理を学修していく。

科目の概要

まず、会計学の前提知識として、ビジネス経営のシミュレーションを通じて会社経営の基礎を学び、会計の有用性を体得する(講義1,2)。その上で、会計の専門的な用語や財務諸表分析のための具体的な手法を習得し、その知識を実社会の中で応用させるための方法を実践を通じて学修する(講義3~8)。そして、財務諸表を作成するための技術である簿記の原理・原則を学修する(講義9~14)。

学修目標

1. 会計の有用性を実践を通じて理解する。
2. 簿記における基本的な考え方や処理方法を習得し、企業の実態を反映する財務諸表について理解する。
3. 財務諸表から得られる情報を、ビジネスにおける様々な活動に活用できる能力を習得する。

内容

1	会計を学修する意義
2	ビジネスゲーム
3	会計情報の基礎知識(損益計算書, 貸借対照表, キャッシュ・フロー計算書)
4	会計分析の基礎知識(財務指標, 比率分析, 趨勢分析)
5	決算分析実例
6	企業の決算報告
7	会計情報と公認会計士の役割
8	会社組織と経営の仕組み
9	簿記の基礎原理 (簿記の5要素と仕訳)
10	簿記の基礎原理 (転記と試算表)
11	財務諸表の作成
12	商品販売 (三分法, 分記法, 値引・返品)
13	商品販売 (売上帳, 仕入帳, 商品有高帳)
14	商品販売 (払出単価の算定)
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（30点）と、学修目標に基づく筆記形式の試験（60点）、通常の授業態度（10点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【電卓】受講するには、必ず電卓を購入の上、参加するようにしてください。以下に、検定試験対応の電卓を紹介しますので参考にして下さい。ただし、必ずしも同じ電卓を購入する必要はありません。検定試験に対応したものであれば他の機種でも構いませんので、各自で検討するようにして下さい。 「CANON HS-1210TU」 「SHARP EL-G36」

【テキスト（教科書）】TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記3級：商業簿記Ver.5.0』TAC出版，TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記3級：商業簿記Ver.5.0』TAC出版

その他適宜、補助レジュメを用意する。

【参考図書】乾 隆一『これだけは知っておきたい「会計」の基本と常識 社会人として最低限知っておきたい「会社のしくみ」がわかる』フォレスト出版

その他、随時教室にて紹介する。

科目名	簿記入門		
担当教員名	吉田 武史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、会計学の根幹を成す「簿記」の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することをねらいとする科目であり、「複式簿記の原理原則」を中心に、「基本的な商業簿記原理及び記帳方法」を理解することが求められる科目である。

科目の概要

前期において学修済みである「会計学基礎」の知識を基盤として、「期中取引における記帳(講義2~9)」と「決算整理事項等(講義10~14)」を中心に、日商簿記3級の全範囲を学修していく。

学修目標

1. 簿記一巡という全体像を理解する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 会計記録から財務諸表を作成する能力を習得する。

内容

1	現金及び預金 (現金の範囲, 現金過不足, 当座預金)
2	現金及び預金 (当座借越, 小口現金, 小口現金出納帳)
3	手形取引 (約束手形, 為替手形)
4	手形取引 (裏書手形, 割引手形, 手形記入帳)
5	その他期中取引 (貸付金, 借入金, 未収金, 未払金, 前払金, 前受金)
6	その他期中取引 (仮払金, 仮受金, 立替金, 預り金, 商品券)
7	その他期中取引 (固定資産, 有価証券, 租税公課, 修正仕訳)
8	合計残高試算表の作成, 決算手続の意義
9	決算整理 (有価証券の評価替え, 現金過不足)
10	決算整理 (消耗品, 売上原価の算定, 固定資産の減価償却)
11	決算整理 (貸倒引当金, 経過勘定(前払費用, 未払費用))
12	決算整理 (経過勘定(前受収益, 未収収益)), 精算表の作成
13	会計帳簿の締切り
14	財務諸表の作成, 伝票会計
15	まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート(20点)と、学修目標に基づく筆記形式の試験(70点)、通常の授業態度(10点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト(教科書)】TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記3級:商業簿記Ver.5.0』TAC出版, TAC簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記3級:商業簿記Ver.5.0』TAC出版

その他適宜, 補助レジユメを用意する。

【参考図書】随時教室にて紹介する。

科目名	簿記入門		
担当教員名	吉田 武史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、会計学の根幹を成す「簿記」の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することをねらいとする科目であり、「複式簿記の原理原則」を中心に、「基本的な商業簿記原理及び記帳方法」を理解することが求められる科目である。

科目の概要

前期において学修済みである「会計学基礎」の知識を基盤として、「期中取引における記帳(講義2~9)」と「決算整理事項等(講義10~14)」を中心に、日商簿記3級の全範囲を学修していく。

学修目標

1. 簿記一巡という全体像を理解する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 会計記録から財務諸表を作成する能力を習得する。

内容

1	現金及び預金 (現金の範囲, 現金過不足, 当座預金)
2	現金及び預金 (当座借越, 小口現金, 小口現金出納帳)
3	手形取引 (約束手形, 為替手形)
4	手形取引 (裏書手形, 割引手形, 手形記入帳)
5	その他期中取引 (貸付金, 借入金, 未収金, 未払金, 前払金, 前受金)
6	その他期中取引 (仮払金, 仮受金, 立替金, 預り金, 商品券)
7	その他期中取引 (固定資産, 有価証券, 租税公課, 修正仕訳)
8	合計残高試算表の作成, 決算手続の意義
9	決算整理 (有価証券の評価替え, 現金過不足)
10	決算整理 (消耗品, 売上原価の算定, 固定資産の減価償却)
11	決算整理 (貸倒引当金, 経過勘定(前払費用, 未払費用))
12	決算整理 (経過勘定(前受収益, 未収収益)), 精算表の作成
13	会計帳簿の締切り
14	財務諸表の作成, 伝票会計
15	まとめ

評価

学修目標に関する課題レポート(20点)と、学修目標に基づく筆記形式の試験(70点)、通常の授業態度(10点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト(教科書)】TAC簿記検定講座『合格テキスト 日商簿記3級:商業簿記Ver.5.0』TAC出版,TA
C簿記検定講座『合格トレーニング 日商簿記3級:商業簿記Ver.5.0』TAC出版

その他適宜,補助レジユメを用意する。

【参考図書】随時教室にて紹介する。

科目名	経営学基礎		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

経営の入門講座として経営の基礎理論と基礎概念を習得することをねらいとする。

企業とは、私たちの生活に必要な商品やサービスを生産し社会に供給することを目的とした、現代社会における大きな社会的発明である。商品やサービスの生産活動は、政府や地方自治体、財団や社団といった非営利法人、さらには個人によっても行われている。しかしながら、それら商品やサービスの生産セクターの内で、最も効果的かつ効率的に生産活動を行うことができるのが企業という仕組みである。

本講座では、企業とはどのような仕組みや構造になっており、また、どのようなメカニズムで運営されているのかについて、初心者が理解できるようわかりやすく解説する。

本講座を履修することにより、経営で取り上げられる諸テーマに関し、それらの経営管理体系における位置づけや相互の関連性が理解できるようになり、その後における、経営管理論や企業戦略論等、経営に関する基幹・関連科目の修得や理解が容易となるよう配慮する。

内容

1	営学とは:]経営の目的、三つの経営課題、経営学の主要テーマ
2	経済的価値の創出(1):]経済的価値の構成、嗜好的価値、機能的価値、情動的価値、
3	経済的価値の創出(2):]マズローの欲求5段階説、欲求と経済的価値
4	商品とは: 製品と商品、商品の経済的価値、商品の類型
5	ブランド: ブランドの意義、ブランドの類型
6	商品市場(1): 市場の定義、需要と供給、市場の構成要素(3C)
7	商品市場(2): 顧客分析、顧客満足度による分類、ロジャーズの普及理論
8	商品市場(3): 競合分析、マーケット・シェア、競争優位性、競争モデル
9	マーケティング(1): マーケティングの4P、商品(Product)
10	マーケティング(2): 価格(Price)、販売チャネル(Place)、販売促進(Promotion)
11	会社とは(1): 会社の種類 - 株式会社、合名会社、合資会社、合同会社、LLP
12	会社とは(2): 株式会社の特徴、資本と経営の分離、株式、会社の機関
13	組織マネジメント(1): 組織化の意義、経営組織、ライン組織、スタッフ組織
14	組織マネジメント(2): マネジメント・サイクル、予算制度、動機づけ
15	まとめ

評価

本講座における評価方法は、期末試験(50点)、授業態度(10点)、小テスト及び小レポート提出(40点)とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】 『ゼミナール経営学入門第3版』 伊丹敬之 / 加護野忠男 著 日本経済新聞社 335.1/1

科目名	経営学基礎		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

経営の入門講座として経営の基礎理論と基礎概念を習得することをねらいとする。

企業とは、私たちの生活に必要な商品やサービスを生産し社会に供給することを目的とした、現代社会における大きな社会的発明である。商品やサービスの生産活動は、政府や地方自治体、財団や社団といった非営利法人、さらには個人によっても行われている。しかしながら、それら商品やサービスの生産セクターの内で、最も効果的かつ効率的に生産活動を行うことができるのが企業という仕組みである。

本講座では、企業とはどのような仕組みや構造になっており、また、どのようなメカニズムで運営されているのかについて、初心者が理解できるようわかりやすく解説する。

本講座を履修することにより、経営で取り上げられる諸テーマに関し、それらの経営管理体系における位置づけや相互の関連性が理解できるようになり、その後における、経営管理論や企業戦略論等、経営に関する基幹・関連科目の修得や理解が容易となるよう配慮する。

内容

1	営学とは:]経営の目的、三つの経営課題、経営学の主要テーマ
2	経済的価値の創出(1):]経済的価値の構成、嗜好的価値、機能的価値、情動的価値、
3	経済的価値の創出(2):]マズローの欲求5段階説、欲求と経済的価値
4	商品とは:製品と商品、商品の経済的価値、商品の類型
5	ブランド:ブランドの意義、ブランドの類型
6	商品市場(1):市場の定義、需要と供給、市場の構成要素(3C)
7	商品市場(2):顧客分析、顧客満足度による分類、ロジャーズの普及理論
8	商品市場(3):競合分析、マーケット・シェア、競争優位性、競争モデル
9	マーケティング(1):マーケティングの4P、商品(Product)
10	マーケティング(2):価格(Price)、販売チャネル(Place)、販売促進(Promotion)
11	会社とは(1):会社の種類-株式会社、合名会社、合資会社、合同会社、LLP
12	会社とは(2):株式会社の特徴、資本と経営の分離、株式、会社の機関
13	組織マネジメント(1):組織化の意義、経営組織、ライン組織、スタッフ組織
14	組織マネジメント(2):マネジメント・サイクル、予算制度、動機づけ
15	まとめ

評価

本講座における評価方法は、期末試験(50点)、授業態度(10点)、小テスト及び小レポート提出(40点)とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】『ゼミナール経営学入門第3版』 伊丹敬之 / 加護野忠男 著 日本経済新聞社 335.1/1

科目名	情報社会論		
担当教員名	岡本 泰次		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報通信技術とその活用分野の発展が、人々の社会生活に様々な変化をもたらしています。

本講義では、具体的な事例によって情報活用の現状を紹介し、情報技術の仕組みと利用手段についても紹介します。また、情報化がもたらす良い面と悪い面、可能性と課題について整理し、社会とビジネスの方向性について考えます。グループ討議などにより、学生どうしの意見交換も実施する予定です。

本講義の目標は、次の3点です。

- 1) 情報化がもたらす社会生活への影響について理解する。
- 2) 情報社会の方向性について自分で考える力を養う。
- 3) 自分自身が情報社会とどのように関わるかを考え、自分自身の行動に役立てる。

内容

1	ガイダンス(授業内容と授業の進め方、情報と社会の関係についてのとらえ方)
2	情報技術の発展と情報社会の展開
3	情報とは何か(情報の取り扱い、リテラシ)
4	家庭・個人と情報活用「市場、報道、コンテンツ」
5	家庭・個人と情報活用「人間関係サービス」
6	家庭・個人と情報活用「公的サービス」
7	企業と情報活用
8	情報通信技術の概要としくみ(ネットワーク、インターネット、クラウド)
9	システムの開発と運用について
10	個人が情報を利用する手段
11	世界中の情報の整理を目指して(Google)
12	情報化される個人、個人へのサービスと民主主義
13	人々の知恵(集合知)
14	情報社会の阻害要因、課題とルールについて
15	情報社会のゆくえ、まとめ

評価

学習目標に関するレポート(50点)と、感想文提出(50点)で、評価を行い160点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】講義資料をPDFなど電子資料で提供します。

【参考図書】総務省『情報通信白書for kids』(http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/kids/index.html)

梅田望夫『ウェブ進化論』(ちくま書房)

坪田知己 『2030年メディアのかたち』（講談社）

科目名	情報社会論		
担当教員名	岡本 泰次		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報通信技術とその活用分野の発展が、人々の社会生活に様々な変化をもたらしています。

本講義では、具体的な事例によって情報活用の現状を紹介し、情報技術の仕組みと利用手段についても紹介します。また、情報化がもたらす良い面と悪い面、可能性と課題について整理し、社会とビジネスの方向性について考えます。グループ討議などにより、学生どうしの意見交換も実施する予定です。

本講義の目標は、次の3点です。

- 1) 情報化がもたらす社会生活への影響について理解する。
- 2) 情報社会の方向性について自分で考える力を養う。
- 3) 自分自身が情報社会とどのように関わるかを考え、自分自身の行動に役立てる。

内容

1	ガイダンス(授業内容と授業の進め方、情報と社会の関係についてのとらえ方)
2	情報技術の発展と情報社会の展開
3	情報とは何か(情報の取り扱い、リテラシ)
4	家庭・個人と情報活用「市場、報道、コンテンツ」
5	家庭・個人と情報活用「人間関係サービス」
6	家庭・個人と情報活用「公的サービス」
7	企業と情報活用
8	情報通信技術の概要としくみ(ネットワーク、インターネット、クラウド)
9	システムの開発と運用について
10	個人の情報利用手段
11	世界中の情報の整理を目指して(Google)
12	情報化される個人、個人へのサービスと民主主義
13	人々の知恵(集合知)
14	情報社会の阻害要因、課題とルールについて
15	情報社会のゆくえ、まとめ

評価

学習目標に関するレポート(50点)と、感想文提出(50点)で、評価を行い160点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】講義資料をPDFなど電子資料で提供します。

【参考図書】総務省『情報通信白書for kids』(http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/kids/index.html)

梅田望夫『ウェブ進化論』(ちくま書房)

坪田知己 『2030年メディアのかたち』（講談社）

科目名	パソコン活用		
担当教員名	泉 直子、中尾 茂子、栗原 隆史、牧村 信之 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (2011年度生) - 生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

日常的に現れるIT関連のハードウェア、ソフトウェアについて演習を中心に学ぶ授業であり、IT関連の授業の最も基礎的な授業である。

各教員が2コマ連続で各種のソフトウェアの利用を通して、IT関連の基礎を教える。フリーのソフトウェアも多く利用し、演習を中心に進める授業である。

今日、日常生活でも複雑なIT関連機器が多く利用され、日進月歩新しくなっている。これらIT関連機器やソフトウェアについて、実際に利用して基本的なことを学び、IT関連の用語、日常的に利用するIT関連の各種のハードウェア、ソフトウェアの機能を理解するとともに、それらのさまざまな違いや、活用の仕方について学ぶ。

日常的に使われているIT機器やソフトウェアについて基本的なことを理解し、各自がよりよい活用の仕方で行うことができるようにする。

内容

各種ソフトウェアの利用を通して日常的に現れるIT関連用語、機能、IT機器の利用方法について学ぶ。

1	全教員による概要説明
2	泉 簡単なアニメーションの作成、と関連する色彩、画像、についての表現について
3	泉 続き
4	小野 データCD, ディスクイメージ、CD・DVDバックアップディスクの作成
5	小野 続き
6	牧村 Windows の仕組みを理解し、そのうまい活用の仕方を学ぶ
7	牧村 続き
8	新行内 Microsoft Publisherによるコンテンツ作成
9	新行内 続き
10	田倉 文字、画像、音声、動画の編集・変換
11	田倉 続き
12	中尾 Microsoft Officeの機能(シェイプアート)による図形描写
13	中尾 続き
14	栗原 フリーソフトを活用したデジカメ写真の画像加工
15	栗原 続き

評価

平常点30点、各教員の2回の授業に対する課題評価10点の合計とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

必要があれば、授業開始時に指定する。

科目名	パソコン活用		
担当教員名	泉 直子、中尾 茂子、栗原 隆史、牧村 信之 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日常的に現れるIT関連のハードウェア、ソフトウェアについて演習を中心に学ぶ授業であり、IT関連の授業の最も基礎的な授業である。

各教員が2コマ連続で各種のソフトウェアの利用を通して、IT関連の基礎を教える。フリーのソフトウェアも多く利用し、演習を中心に進める授業である。

今日、日常生活でも複雑なIT関連機器が多く利用され、日進月歩新しくなっている。これらIT関連機器やソフトウェアについて、実際に利用して基本的なことを学び、IT関連の用語、日常的に利用するIT関連の各種のハードウェア、ソフトウェアの機能を理解するとともに、それらのさまざまな違いや、活用の仕方について学ぶ。

日常的に使われているIT機器やソフトウェアについて基本的なことを理解し、各自がよりよい活用の仕方を利用することができるようにする。

内容

各種ソフトウェアの利用を通して日常的に現れるIT関連用語、機能、IT機器の利用方法について学ぶ。

1	全教員による概要説明
2	栗原 フリーソフトを活用したデジカメ写真の画像加工
3	栗原 続き
4	泉 簡単なアニメーションの作成、と関連する色彩、画像、についての表現について
5	泉 続き
6	小野 データCD, ディスクイメージ、CD・DVDバックアップディスクの作成
7	小野 続き
8	牧村 Windowsの仕組みを理解しそのうまい活用の仕方を学ぶ
9	牧村 続き
10	新行内 Microsoft Publisherによるコンテンツ作成
11	新行内 続き
12	田倉 文字、画像、音声、動画の編集・変換
13	田倉 続き
14	中尾 Microsoft Officeの機能(シェイプアート)による図形描写
15	中尾 続き

評価

平常点30点、各教員の2回の授業に対する課題評価10点の合計とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要があれば、授業開始時に指定する。

科目名	パソコン活用		
担当教員名	泉 直子、中尾 茂子、栗原 隆史、牧村 信之 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日常的に現れるIT関連のハードウェア、ソフトウェアについて演習を中心に学ぶ授業であり、IT関連の授業の最も基礎的な授業である。

各教員が2コマ連続で各種のソフトウェアの利用を通して、IT関連の基礎を教える。フリーのソフトウェアも多く利用し、演習を中心に進める授業である。

今日、日常生活でも複雑なIT関連機器が多く利用され、日進月歩新しくなっている。これらIT関連機器やソフトウェアについて、実際に利用して基本的なことを学び、IT関連の用語、日常的に利用するIT関連の各種のハードウェア、ソフトウェアの機能を理解するとともに、それらのさまざまな違いや、活用の仕方について学ぶ。

日常的に使われているIT機器やソフトウェアについて基本的なことを理解し、各自がよりよい活用の仕方を利用することができるようにする。

内容

各種ソフトウェアの利用を通して日常的に現れるIT関連用語、機能、IT機器の利用方法について学ぶ。

1	全教員による概要説明
2	中尾 Microsoft Officeの機能(シェイプアート)による図形描写
3	中尾 続き
4	栗原 フリーソフトを活用したデジカメ写真の画像加工
5	栗原 続き
6	泉 簡単なアニメーションの作成、と関連する色彩、画像、についての表現について
7	泉 続き
8	小野 データCD, ディスクイメージ、CD・DVDバックアップディスクの作成
9	小野 続き
10	牧村 Windowsの仕組みを理解しそのうまい活用の仕方を学ぶ
11	牧村 続き
12	新行内 Microsoft Publisherによるコンテンツ作成
13	新行内 続き
14	田倉 文字、画像、音声、動画の編集・変換
15	田倉 続き

評価

平常点30点、各教員の2回の授業に対する課題評価10点の合計とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要があれば、授業開始時に指定する。

科目名	パソコン活用		
担当教員名	泉 直子、中尾 茂子、栗原 隆史、牧村 信之 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (2011年度生) - 生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

日常的に現れるIT関連のハードウェア、ソフトウェアについて演習を中心に学ぶ授業であり、IT関連の授業の最も基礎的な授業である。

各教員が2コマ連続で各種のソフトウェアの利用を通して、IT関連の基礎を教える。フリーのソフトウェアも多く利用し、演習を中心に進める授業である。

今日、日常生活でも複雑なIT関連機器が多く利用され、日進月歩新しくなっている。これらIT関連機器やソフトウェアについて、実際に利用して基本的なことを学び、IT関連の用語、日常的に利用するIT関連の各種のハードウェア、ソフトウェアの機能を理解するとともに、それらのさまざまな違いや、活用の仕方について学ぶ。

日常的に使われているIT機器やソフトウェアについて基本的なことを理解し、各自がよりよい活用の仕方を利用することができるようにする。

内容

各種ソフトウェアの利用を通して日常的に現れるIT関連用語、機能、IT機器の利用方法について学ぶ。

1	全教員による概要説明
2	田倉 文字、画像、音声、動画の編集・変換
3	田倉 続き
4	中尾 Microsoft Officeの機能(シェイプアート)による図形描写
5	中尾 続き
6	栗原 フリーソフトを活用したデジカメ写真の画像加工
7	栗原 続き
8	泉 簡単なアニメーションの作成、と関連する色彩、画像、についての表現について
9	泉 続き
10	小野 データCD, ディスクイメージ、CD・DVDバックアップディスクの作成
11	小野 続き
12	牧村 Windowsの仕組みを理解しそのうまい活用の仕方を学ぶ
13	牧村 続き
14	新行内 Microsoft Publisherによるコンテンツ作成
15	新行内 続き

評価

平常点30点、各教員の2回の授業に対する課題評価10点の合計とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

必要があれば、授業開始時に指定する。

科目名	ビジネス文書作成		
担当教員名	平野 貴大		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(家庭)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、生活情報学科専門科目の科目区分「Dビジネスで情報を生かす」に含まれる選択科目であり、日商PC検定文書作成またはMOS(Microsoft Office Specialist)Wordの資格試験の合格をめざす。

科目の概要

Wordの基本的な機能の使い方については、共通科目の情報処理演習で習得済みであることから、本演習では、Wordを用いてビジネス文書の書き方や実践的な高度なWord機能の使い方など総合的なスキルを習得することを目標とする。問題練習の実習を繰り返して行うことにより、ビジネス文書を効率的に作成できる技法を身につける。

学修目標

ビジネス文書の書き方を理解する。

Word機能を利用して実践的な各種ビジネス文書を作成することができる。

資格試験合格に必要なスキルと知識を習得する。

内容

1	通知状の作成(1)
2	通知状の作成(2)
3	案内状の作成(1)
4	案内状の作成(2)
5	挨拶状の作成
6	請求書の作成
7	見積書の作成
8	PC検定の模擬問題(文書作成と知識問題)の取組み
9	納品書の作成
10	議事録の作成
11	報告書の作成(1)
12	報告書の作成(2)
13	企画書の作成
14	MOSの模擬問題の取組み
15	まとめ

評価

毎回の課題の提出状況と完成度により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指示する。

科目名	ビジネス文書作成		
担当教員名	平野 貴大		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(家庭)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、生活情報学科専門科目の科目区分「Dビジネスで情報を生かす」に含まれる選択科目であり、日商PC検定文書作成またはMOS(Microsoft Office Specialist)Wordの資格試験の合格をめざす。

科目の概要

Wordの基本的な機能の使い方については、共通科目の情報処理演習で習得済みであることから、本演習では、Wordを用いてビジネス文書の書き方や実践的な高度なWord機能の使い方など総合的なスキルを習得することを目標とする。問題練習の実習を繰り返して行うことにより、ビジネス文書を効率的に作成できる技法を身につける。

学修目標

ビジネス文書の書き方を理解する。

Word機能を利用して実践的な各種ビジネス文書を作成することができる。

資格試験合格に必要なスキルと知識を習得する。

内容

1	通知状の作成(1)
2	通知状の作成(2)
3	案内状の作成(1)
4	案内状の作成(2)
5	挨拶状の作成
6	請求書の作成
7	見積書の作成
8	PC検定の模擬問題(文書作成と知識問題)の取組み
9	納品書の作成
10	議事録の作成
11	報告書の作成(1)
12	報告書の作成(2)
13	企画書の作成
14	MOSの模擬問題の取組み
15	まとめ

評価

毎回の課題の提出状況と完成度により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指示する。

科目名	ビジネス文書作成		
担当教員名	中尾 茂子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(家庭)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、生活情報学科専門科目の科目区分「Dビジネスで情報を生かす」に含まれる選択科目であり、日商PC検定文書作成またはMOS(Microsoft Office Specialist)Wordの資格試験の合格をめざす。

科目の概要

Wordの基本的な機能の使い方については、共通科目の情報処理演習で習得済みであることから、本演習では、Wordを用いてビジネス文書の書き方や実践的な高度なWord機能の使い方など総合的なスキルを習得することを目標とする。問題練習の実習を繰り返して行うことにより、ビジネス文書を効率的に作成できる技法を身につける。

学修目標

ビジネス文書の書き方を理解する。

Word機能を利用して実践的な各種ビジネス文書を作成することができる。

資格試験合格に必要なスキルと知識を習得する。

内容

1	通知状の作成(1)
2	通知状の作成(2)
3	案内状の作成(1)
4	案内状の作成(2)
5	挨拶状の作成
6	請求書の作成
7	見積書の作成
8	PC検定の模擬問題(文書作成と知識問題)の取組み
9	納品書の作成
10	議事録の作成
11	報告書の作成(1)
12	報告書の作成(2)
13	企画書の作成
14	MOSの模擬問題の取組み
15	まとめ

評価

毎回の課題の提出状況と完成度により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指示する。

科目名	ビジネス文書作成		
担当教員名	中尾 茂子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(家庭)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、生活情報学科専門科目の科目区分「Dビジネスで情報を生かす」に含まれる選択科目であり、日商PC検定文書作成またはMOS(Microsoft Office Specialist)Wordの資格試験の合格をめざす。

科目の概要

Wordの基本的な機能の使い方については、共通科目の情報処理演習で習得済みであることから、本演習では、Wordを用いてビジネス文書の書き方や実践的な高度なWord機能の使い方など総合的なスキルを習得することを目標とする。問題練習の実習を繰り返して行うことにより、ビジネス文書を効率的に作成できる技法を身につける。

学修目標

ビジネス文書の書き方を理解する。

Word機能を利用して実践的な各種ビジネス文書を作成することができる。

資格試験合格に必要なスキルと知識を習得する。

内容

1	通知状の作成(1)
2	通知状の作成(2)
3	案内状の作成(1)
4	案内状の作成(2)
5	挨拶状の作成
6	請求書の作成
7	見積書の作成
8	PC検定の模擬問題(文書作成と知識問題)の取組み
9	納品書の作成
10	議事録の作成
11	報告書の作成(1)
12	報告書の作成(2)
13	企画書の作成
14	MOSの模擬問題の取組み
15	まとめ

評価

毎回の課題の提出状況と完成度により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指示する。

科目名	アニメーション入門		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

現在、アニメーションは身近なものとなっており、プレゼンテーションにおいて複雑な内容を容易に説明するためや、ホームページに多く用いられ、ゲームを作成することも可能である。そこで、本科目では、アニメーションの基本から学習し、アニメーションソフトの使用方法から素材の利用方法など基礎的なことを学び、次の科目である「アニメーション制作」に繋げていく。

本科目ではアニメーションを作成していくために、アニメーションソフトの使用方法から始める。その後、基本的なオブジェクトの作画とアニメーションの設定手順、デジカメ写真やビデオ素材の使用手順、インタラクティブな機能を持たせるための初歩的なプログラムなどを学びます。

内容

1	オリエンテーション
2	アニメーション作製ソフトの使用方法
3	アニメーション作製ソフトの詳細使用方法
4	イラスト作成
5	アニメーション作製
6	アニメーション作製（ボタンとの連動）
7	スライドショーの作成（素材の取り込み）
8	スライドショーの作成
9	中間課題
10	ActionScriptの設定
11	ActionScriptの詳細設定
12	タイトルムービー作成
13	音楽の追加
14	インタラクティブムービーの作成
15	最終課題

評価

課題点80点 平常点20点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示する。

科目名	アニメーション入門		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

現在、アニメーションは身近なものとなっており、プレゼンテーションにおいて複雑な内容を容易に説明するためや、ホームページに多く用いられ、ゲームを作成することも可能である。そこで、本科目では、アニメーションの基本から学習し、アニメーションソフトの使用方法から素材の利用方法など基礎的なことを学び、次の科目である「アニメーション制作」に繋げていく。

本科目ではアニメーションを作成していくために、アニメーションソフトの使用方法から始める。その後、基本的なオブジェクトの作画とアニメーションの設定手順、デジカメ写真やビデオ素材の使用手順、インタラクティブな機能を持たせるための初歩的なプログラムなどを学びます。

内容

1	オリエンテーション
2	アニメーション作製ソフトの使用方法
3	アニメーション作製ソフトの詳細使用方法
4	イラスト作成
5	アニメーション作製
6	アニメーション作製（ボタンとの連動）
7	スライドショーの作成（素材の取り込み）
8	スライドショーの作成
9	中間課題
10	ActionScriptの設定
11	ActionScriptの詳細設定
12	タイトルムービー作成
13	音楽の追加
14	インタラクティブムービーの作成
15	最終課題

評価

課題点80点 平常点20点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示する。

科目名	アニメーション入門		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

現在、アニメーションは身近なものとなっており、プレゼンテーションにおいて複雑な内容を容易に説明するためや、ホームページに多く用いられ、ゲームを作成することも可能である。そこで、本科目では、アニメーションの基本から学習し、アニメーションソフトの使用方法から素材の利用方法など基礎的なことを学び、次の科目である「アニメーション制作」に繋げていく。

本科目ではアニメーションを作成していくために、アニメーションソフトの使用方法から始める。その後、基本的なオブジェクトの作画とアニメーションの設定手順、デジカメ写真やビデオ素材の使用手順、インタラクティブな機能を持たせるための初歩的なプログラムなどを学びます。

内容

1	オリエンテーション
2	アニメーション作製ソフトの使用方法
3	アニメーション作製ソフトの詳細使用方法
4	イラスト作成
5	アニメーション作製
6	アニメーション作製（ボタンとの連動）
7	スライドショーの作成（素材の取り込み）
8	スライドショーの作成
9	中間課題
10	ActionScriptの設定
11	ActionScriptの詳細設定
12	タイトルムービー作成
13	音楽の追加
14	インタラクティブムービーの作成
15	最終課題

評価

課題点80点 平常点20点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示する。

科目名	ソフトウェア基礎		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (2011年度生) - 生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

コンピュータを理解するうえで、ハードウェアとソフトウェアの両方を理解することが重要となる。特にソフトウェアは、一般的なアプリケーションソフトだけではなく、オペレーティングシステムや更には、操作手順までを含めた範囲の広いものである。本科目では、コンピュータの働きをソフトウェアの観点から学習する。前半は基数法・論理演算など、コンピュータが情報をどのように扱うかを理解する。後半は、OSをはじめとしソフトウェアの働きや分類を学ぶ。また、アルゴリズムを学ぶ上での基本的なツールとなるフローチャートや基本的なアルゴリズムも紹介する。

内容

1	オリエンテーション
2	基数法 (2 進数、8 進数、16 進数)
3	基数法 (n 進数 10 進数変換、n 進数の小数)
4	基数法 (10 進数 n 進数変換、2・8・16 進数相互変換)
5	補数、論理演算、ビット演算 (ビットシフト)
6	浮動小数点、文字コード
7	論理演算
8	ソフトウェアの分類
9	OS (ジョブ管理、タスク管理)
10	OS (マルチプログラミング)
11	実記憶管理・仮想記憶システム
12	プログラム言語・データ構造
13	アルゴリズム (検索・整列)
14	フローチャート、トレース
15	まとめ

評価

期末テスト60点 課題点20点 平常点20点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

オリエンテーション時に指示する。

科目名	ソフトウェア基礎		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (2011年度生) - 生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

コンピュータを理解するうえで、ハードウェアとソフトウェアの両方を理解することが重要となる。特にソフトウェアは、一般的なアプリケーションソフトだけではなく、オペレーティングシステムや更には、操作手順までを含めた範囲の広いものである。本科目では、コンピュータの働きをソフトウェアの観点から学習する。前半は基数法・論理演算など、コンピュータが情報をどのように扱うかを理解する。後半は、OSをはじめとしソフトウェアの働きや分類を学ぶ。また、アルゴリズムを学ぶ上での基本的なツールとなるフローチャートや基本的なアルゴリズムも紹介する。

内容

1	オリエンテーション
2	基数法 (2 進数、8 進数、16 進数)
3	基数法 (n 進数 10 進数変換、n 進数の小数)
4	基数法 (10 進数 n 進数変換、2・8・16 進数相互変換)
5	補数、論理演算、ビット演算 (ビットシフト)
6	浮動小数点、文字コード
7	論理演算
8	ソフトウェアの分類
9	OS (ジョブ管理、タスク管理)
10	OS (マルチプログラミング)
11	実記憶管理・仮想記憶システム
12	プログラム言語・データ構造
13	アルゴリズム (検索・整列)
14	フローチャート、トレース
15	まとめ

評価

期末テスト60点 課題点20点 平常点20点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

オリエンテーション時に指示する。

科目名	ハードウェア基礎		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

コンピュータのハードウェアと多様な周辺装置の基礎的知識を学ぶことにより、今後のコンピュータ 学習への基礎的な能力の育成します。

これからの社会生活に必要な不可欠なコンピュータの基礎的な仕組みを知り、自分の目的に合ったコン ピュータ活用ができるようにしていきます。

1. コンピュータの基本的な構成要素を理解する。
2. コンピュータ動作の原理を理解する。
3. 主要な装置と周辺機器のしくみを理解する。
4. 自分の手でコンピュータを組み立て、ハードウェアの実際を体験する。

内容

1	コンピュータの概要とハードウェア
2	コンピュータ発展の歴史
3	コンピュータ各部の名称と働き
4	C P U 1 (動作原理、クロック、命令の流れ)
5	C P U 2 (高速化技術、パイプラインとスーパースケラ)
6	メモリ 1 (メモリの種類)
7	メモリ 2 (メモリの特徴)
8	入力装置(キーボード、マウス等)
9	補助記憶装置 1 (ハードディスク、フロッピーディスクの動作)
10	補助記憶装置 2 (C D - R O M、M O)
11	補助記憶装置 3 (U S Bメモリ等)
12	出力装置 1 (C R Tディスプレイ、液晶ディスプレイ)
13	出力装置 2 (カラープリンタ、ページプリンタ等)
14	パーソナルコンピュータの組み立て実習
15	まとめ

評価

授業での小テスト(30%)と筆記試験(70%)により得点化を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目名	ハードウェア基礎		
担当教員名	栗原 隆史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (2011年度生) - 生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

コンピュータのハードウェアと多様な周辺装置の基礎的知識を学ぶことにより、今後のコンピュータ 学習への基礎的な能力の育成します。

これからの社会生活に必要なコンピュータの基礎的な仕組みを知り、自分の目的に合ったコン ピュータ活用ができるようにしていきます。

1. コンピュータの基本的な構成要素を理解する。
2. コンピュータ動作の原理を理解する。
3. 主要な装置と周辺機器のしくみを理解する。
4. 自分の手でコンピュータを組み立て、ハードウェアの実際を体験する。

内容

1	コンピュータの概要とハードウェア
2	コンピュータ発展の歴史
3	コンピュータ各部の名称と働き
4	C P U 1 (動作原理、クロック、命令の流れ)
5	C P U 2 (高速化技術、パイプラインとスーパースケラ)
6	メモリ 1 (メモリの種類)
7	メモリ 2 (メモリの特徴)
8	入力装置 (キーボード、マウス等)
9	補助記憶装置 1 (ハードディスク、フロッピーディスクの動作)
10	補助記憶装置 2 (C D - R O M、M O)
11	補助記憶装置 3 (U S Bメモリ等)
12	出力装置 1 (C R Tディスプレイ、液晶ディスプレイ)
13	出力装置 2 (カラープリンタ、ページプリンタ等)
14	パーソナルコンピュータの組み立て実習
15	まとめ

評価

授業での小テスト (30%) と筆記試験 (70%) により得点化を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目名	プログラミング入門		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目は、プログラミングだけでなくアルゴリズム構築を必要とする科目の基礎となる科目であり、プログラム言語としてJavaを使用する科目の基礎ともなる。概要は、Javaの基本構文について学ぶとともに、プログラム開発の一般的な過程 - 設計・コーディング・テスト・デバッグ - を実際に体験し、基本的なアルゴリズムを理解する。
 授業では、毎回内容説明の後、課題を出すので、期日までに課題提出をしていく。

内容

1	オリエンテーション
2	プログラミング環境設定・理解
3	プログラミング環境使用詳細・理解
4	変数と計算
5	条件分岐構文（if文）
6	条件分岐構文（複数条件）
7	条件分岐構文応用（入れ子）
8	応用課題
9	配列
10	繰り返し構文（for文）
11	繰り返し構文と配列
12	繰り返し構文（while文）
13	その他の繰り返し構文
14	繰り返し構文応用課題
15	まとめ応用課題

評価

課題点80点 平常点20点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

詳細については、オリエンテーションで指示する。

科目名	プログラミング入門		
担当教員名	小野 裕次郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (2011年度生) - 生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、プログラミングだけでなくアルゴリズム構築を必要とする科目の基礎となる科目であり、プログラム言語としてJavaを使用する科目の基礎ともなる。概要は、Javaの基本構文について学ぶとともに、プログラム開発の一般的な過程 - 設計・コーディング・テスト・デバッグ - を実際に体験し、基本的なアルゴリズムを理解する。

授業では、毎回内容説明の後、課題を出すので、期日までに課題提出をしていく。

内容

1	オリエンテーション
2	プログラミング環境設定・理解
3	プログラミング環境使用詳細・理解
4	変数と計算
5	条件分岐構文 (if文)
6	条件分岐構文 (複数条件)
7	条件分岐構文応用 (入れ子)
8	応用課題
9	配列
10	繰り返し構文 (for文)
11	繰り返し構文と配列
12	繰り返し構文 (while文)
13	その他の繰り返し構文
14	繰り返し構文応用課題
15	まとめ応用課題

評価

課題点80点 平常点20点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

詳細については、オリエンテーションで指示する。

科目名	プログラミング入門		
担当教員名	名児耶 厚		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目は、プログラミングだけでなくアルゴリズム構築を必要とする科目の基礎となる科目であり、プログラム言語としてJavaを使用する科目の基礎ともなる。概要は、Javaの基本構文について学ぶとともに、プログラム開発の一般的な過程 - 設計・コーディング・テスト・デバッグ - を実際に体験し、基本的なアルゴリズムを理解する。
授業では、毎回内容説明の後、課題を出すので、期日までに課題提出をしていく。

内容

1	オリエンテーション
2	プログラミング環境設定・理解
3	プログラミング環境使用詳細・理解
4	変数と計算
5	条件分岐構文（if文）
6	条件分岐構文（複数条件）
7	条件分岐構文応用（入れ子）
8	応用課題
9	配列
10	繰り返し構文（for文）
11	繰り返し構文と配列
12	繰り返し構文（while文）
13	その他の繰り返し構文
14	繰り返し構文応用課題
15	まとめ応用課題

評価

課題点80点 平常点20点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

詳細については、オリエンテーションで指示する。

科目名	プログラミング入門		
担当教員名	名児耶 厚		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（2011年度生）-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目は、プログラミングだけでなくアルゴリズム構築を必要とする科目の基礎となる科目であり、プログラム言語としてJavaを使用する科目の基礎ともなる。概要は、Javaの基本構文について学ぶとともに、プログラム開発の一般的な過程 - 設計・コーディング・テスト・デバッグ - を実際に体験し、基本的なアルゴリズムを理解する。授業では、毎回内容説明の後、課題を出すので、期日までに課題提出をしていく。

内容

1	オリエンテーション
2	プログラミング環境設定・理解
3	プログラミング環境使用詳細・理解
4	変数と計算
5	条件分岐構文（if文）
6	条件分岐構文（複数条件）
7	条件分岐構文応用（入れ子）
8	応用課題
9	配列
10	繰り返し構文（for文）
11	繰り返し構文と配列
12	繰り返し構文（while文）
13	その他の繰り返し構文
14	繰り返し構文応用課題
15	まとめ応用課題

評価

課題点80点 平常点20点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

詳細については、オリエンテーションで指示する。

科目名	プログラミング初級		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目では、プログラミング入門で学んだ基本構文をベースに、より複雑な処理のプログラミングについて学ぶ。受講にあたっては、プログラミング入門を履修済であることが望ましい。

科目の概要

目的に応じて必要な処理の流れを考え、入出力・演算・条件分岐・反復の基本構文を用いてプログラミングする力を課題演習の繰り返しにより養う。

学修目標

基本構文の理解を深め、必要な処理の流れを考え、プログラミングする力の修得を目指す。

内容

1	開発環境、基本構文の確認(入出力、演算)
2	基本構文の確認(条件分岐)
3	基本構文の確認(反復)
4	条件分岐の多重構造
5	条件分岐と反復を組み合わせた処理
6	反復の多重構造
7	アルゴリズムとフローチャート(1)
8	アルゴリズムとフローチャート(2)
9	メソッドの基礎
10	メソッドの利用
11	いろいろなメソッド
12	メソッドの応用(1)
13	メソッドの応用(2)
14	まとめ
15	総合演習

評価

各回で出題する課題により評価し、60点に満たなかった受講者には再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】

テキストは使用しない。講義で使用する資料は総合教育システムで提供するので予習・復習に役立てること。

【参考図書】

- ・高橋麻奈 『やさしいJava 第4版』 ソフトバンククリエイティブ
- ・柴田望洋 『明解Java 入門編』 ソフトバンククリエイティブ
- ・柴田望洋 『明解Javaによるアルゴリズムとデータ構造』 ソフトバンククリエイティブ

科目名	プログラミング初級		
担当教員名	新行内 康慈		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生)-生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目では、プログラミング入門で学んだ基本構文をベースに、より複雑な処理のプログラミングについて学ぶ。受講にあたっては、プログラミング入門を履修済であることが望ましい。

科目の概要

目的に応じて必要な処理の流れを考え、入出力・演算・条件分岐・反復の基本構文を用いてプログラミングする力を課題演習の繰り返しにより養う。

学修目標

基本構文の理解を深め、必要な処理の流れを考え、プログラミングする力の修得を目指す。

内容

1	開発環境、基本構文の確認(入出力、演算)
2	基本構文の確認(条件分岐)
3	基本構文の確認(反復)
4	条件分岐の多重構造
5	条件分岐と反復を組み合わせた処理
6	反復の多重構造
7	アルゴリズムとフローチャート(1)
8	アルゴリズムとフローチャート(2)
9	メソッドの基礎
10	メソッドの利用
11	いろいろなメソッド
12	メソッドの応用(1)
13	メソッドの応用(2)
14	まとめ
15	総合演習

評価

各回で出題する課題により評価し、60点に満たなかった受講者には再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】

テキストは使用しない。講義で使用する資料は総合教育システムで提供するので予習・復習に役立てること。

【参考図書】

- ・高橋麻奈 『やさしいJava 第4版』 ソフトバンククリエイティブ
- ・柴田望洋 『明解Java 入門編』 ソフトバンククリエイティブ
- ・柴田望洋 『明解Javaによるアルゴリズムとデータ構造』 ソフトバンククリエイティブ

科目名	プログラミング初級		
担当教員名	名児耶 厚		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目では、プログラミング入門で学んだ基本構文をベースに、より複雑な処理のプログラミングについて学ぶ。受講にあたっては、プログラミング入門を履修済であることが望ましい。

科目の概要

目的に応じて必要な処理の流れを考え、入出力・演算・条件分岐・反復の基本構文を用いてプログラミングする力を課題演習の繰り返しにより養う。

学修目標

基本構文の理解を深め、必要な処理の流れを考え、プログラミングする力の修得を目指す。

内容

1	開発環境、基本構文の確認(入出力、演算)
2	基本構文の確認(条件分岐)
3	基本構文の確認(反復)
4	条件分岐の多重構造
5	条件分岐と反復を組み合わせた処理
6	反復の多重構造
7	アルゴリズムとフローチャート(1)
8	アルゴリズムとフローチャート(2)
9	メソッドの基礎
10	メソッドの利用
11	いろいろなメソッド
12	メソッドの応用(1)
13	メソッドの応用(2)
14	まとめ
15	総合演習

評価

各回で出題する課題により評価し、60点に満たなかった受講者には再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】

テキストは使用しない。講義で使用する資料は総合教育システムで提供するので予習・復習に役立てること。

【参考図書】

- ・高橋麻奈 『やさしいJava 第4版』 ソフトバンククリエイティブ
- ・柴田望洋 『明解Java 入門編』 ソフトバンククリエイティブ
- ・柴田望洋 『明解Javaによるアルゴリズムとデータ構造』 ソフトバンククリエイティブ

科目名	プログラミング初級		
担当教員名	名児耶 厚		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(2011年度生) - 生活情報学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目では、プログラミング入門で学んだ基本構文をベースに、より複雑な処理のプログラミングについて学ぶ。受講にあたっては、プログラミング入門を履修済であることが望ましい。

科目の概要

目的に応じて必要な処理の流れを考え、入出力・演算・条件分岐・反復の基本構文を用いてプログラミングする力を課題演習の繰り返しにより養う。

学修目標

基本構文の理解を深め、必要な処理の流れを考え、プログラミングする力の修得を目指す。

内容

1	開発環境、基本構文の確認(入出力、演算)
2	基本構文の確認(条件分岐)
3	基本構文の確認(反復)
4	条件分岐の多重構造
5	条件分岐と反復を組み合わせた処理
6	反復の多重構造
7	アルゴリズムとフローチャート(1)
8	アルゴリズムとフローチャート(2)
9	メソッドの基礎
10	メソッドの利用
11	いろいろなメソッド
12	メソッドの応用(1)
13	メソッドの応用(2)
14	まとめ
15	総合演習

評価

各回で出題する課題により評価し、60点に満たなかった受講者には再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】

テキストは使用しない。講義で使用する資料は総合教育システムで提供するので予習・復習に役立てること。

【参考図書】

- ・高橋麻奈 『やさしいJava 第4版』 ソフトバンククリエイティブ
- ・柴田望洋 『明解Java 入門編』 ソフトバンククリエイティブ
- ・柴田望洋 『明解Javaによるアルゴリズムとデータ構造』 ソフトバンククリエイティブ